

どんびま

2006年12月10日発行
 発行者 椈の湖農業小学校

焚き火

卒業式が終わり、後片付けをしていた時、二人のお母さんが柵に寄りかかって何時までも何か話し込んでいた。聞いてみると、焚き火が面白くて離れられない子どもたちを気長に待っているとのこと。

良かったと思った。今年は特別寒くもなく、焼芋などをする目的でもなく、ただなにげなしに火を焚いた。朝、火が点くと、ある子はぼたの枯れ草を集めてきては火にくべる。また、ある子は畑の生しい草を焼こうとするなど様々な行動が始まったものであった。そしてまだ、その続きをやめられない子どもたちが残っているのだ。

これからは寒くなるので、野外で働く農家などには焚き火の恋しい季節となる。しかし、今は焚き火は原則禁止である。ごみを焼くなどはもっての外で、農家でも作業で生じた草や木しか燃やすことはできない。

キャンプファイヤーの火の長の詞にあるように、人間は火を使う動物である。文明の発達で現代では火は様々な姿で様々なに使われている。発達し過ぎた火（兵器・核）によって生存の危機に晒されている。

各家庭でも、ガス・石油・電気と便利な生活を送っている。しかし、一步外に出ればガスや石油がどこにでもあるわけでない。何かあった時、天災に遭遇した時など、暖をとる必要の出来た時には火を起こし火を焚く力が要求されるだろう。

農業小学校での「火遊び」は生きる力をつける貴重な体験かとも思う。

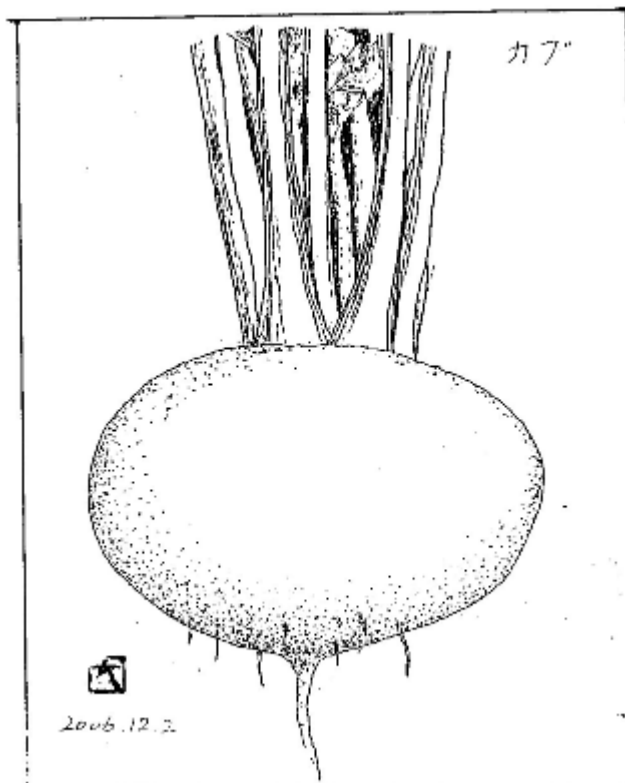
与えられた木をただ燃やすだけでなく、薪を集める、つまり燃える木を選ぶ力も必要だ。

昔の年寄りたちは良く言った。「米は搗いて食べ、木は割ってくべよ。」また「薪を割れ、二重に暖まる。」とも聞いた。生活の知恵だ。人生の教訓にさえ聞こえる。

農業小学校の遊びの中で、火の扱いを体験しながら、火の大切さ、火の恐ろしさも学んで、「ひとなって」ほしいと願っています。

一年間ありがとうございました。又、来年も友達や知り合いを誘ってお出かけください。仲間が増えていくことを楽しみにしています。

(校長 安保洋勝)



一年間ご苦労さまでした

3月入学式からの9ヶ月、あっと云う間の一年間でした。待ちにまった卒業式は晴れがましい日でもあり、また一抹の寂しさを感じる日でもあります。

今年も大きなアクシデントも無く、無事に卒業式を迎えたのは大きな喜びでした。

- * 午前の授業。野菜の収穫作業は、だいこん、かぶ、長ねぎ、下仁田ねぎ、ごぼう、里芋。例年の如く卒業試験の「ごぼう掘り」はスコップやバールを使って、お父さんも大奮闘しました。大根は全国的にも大豊作ですが、農小でも沢山取れました。有機栽培の大根はサラダで食べるととても美味しいと思います。ねぎも沢山出来ましたが、特に下仁田ねぎは焼いて食べると甘くて美味しい葱です。
- * 収穫祭。昼食は収穫祭にふさわしく、盛沢山の品が並びました。おろし餅、きなこ餅、ごへいもち、フライドポテト、手羽先から揚げ、サラダ、ぜんざい、こくしょう、里芋田楽などでしたが、全部食べきれたでしょうか？ 何時もながら厨房スタッフの方達の奮闘ぶりには感心させられます。
- * 市長挨拶。中津川市の市長さんが視察にみえられ挨拶を戴きました。名前の由来については、農業に関わり食を大切にすると云う両親の思いを語られました。
- * 卒業式。午後からは卒業式が行われました。
 - 卒業証書授与。椋の湖農業小学校の自慢でも有り、皆さんからも大変期待されている木製の卒業証書が、校長先生から一人ひとりに手渡されました。
 - 皆勤賞の授与。一年間休まず出席した生徒が皆勤賞を受けました。賞品として小豆がおくられましたが、これはスタッフの冨田さんが丹精込めて栽培した物です。
 - バケツ稲コンクール表彰。上位入賞者には賞品としてシクラメンの花がおくられ、参加賞として全員に大豆が配られました。
 - 特別表彰。一升瓶による米搗きに果敢に挑戦した二人には、校長先生から特別表彰があり野菜がおくられました。
 - 生徒代表謝辞。6年生二人の生徒が一年間の授業について、感想と感謝の気持ちをのべました。
 - 父兄代表挨拶。父兄の代表が12年前の入学からの思い出をのべ、子供が卒業した後もなお参加したいと云うことで、スタッフ一同にとってとても感動的なご挨拶を頂きました。
 - 来賓紹介と挨拶。JAセンター長と、姉妹校の荒城農業小学校の方からも、来年に向けての激励の言葉を頂きました。
- * 持ち帰り野菜。今年最後の野菜は、収穫したものすべてが持ち帰りとなり大きな袋二杯もありました。スーパーの牛蒡と同じ種とは思えないほど、姿かたちの違う牛蒡ですが味は抜群で香りのある牛蒡です。

～とくちゃんのちょっと一言～

昔の日本は農業国でした。自国の食糧はすべて賄うことが出来ました。何時の間にか外国に頼る率が半分以上という異常な状況に置かれています。これは日本の工業製品の輸出との兼ね合いによる、農産物の輸入が大きな原因となっています。

今や日本は工業国であり産業によって成り立っています。戦後復興と同時に著しい発達を遂げた産業開発により、工業製品の輸出が国の経済を支えて来ました。

「日本人は物まね上手」と云われた時代がありました。これは外国の優秀な製品を見本にして、工夫を加えながら製品化してしまう事を揶揄された言葉です。これは日本人特有の器用さと勤勉さが成せる技の賜物と云えるでしょう。

しかし最近これがちょっと危なくなってきたと云われています。何故ならこの先の日本を支える若い人達の手先が、先人の人達に比べて著しく落ちていると云うのです。特に製造現場においては上司の一致した悩みとなっているようです。

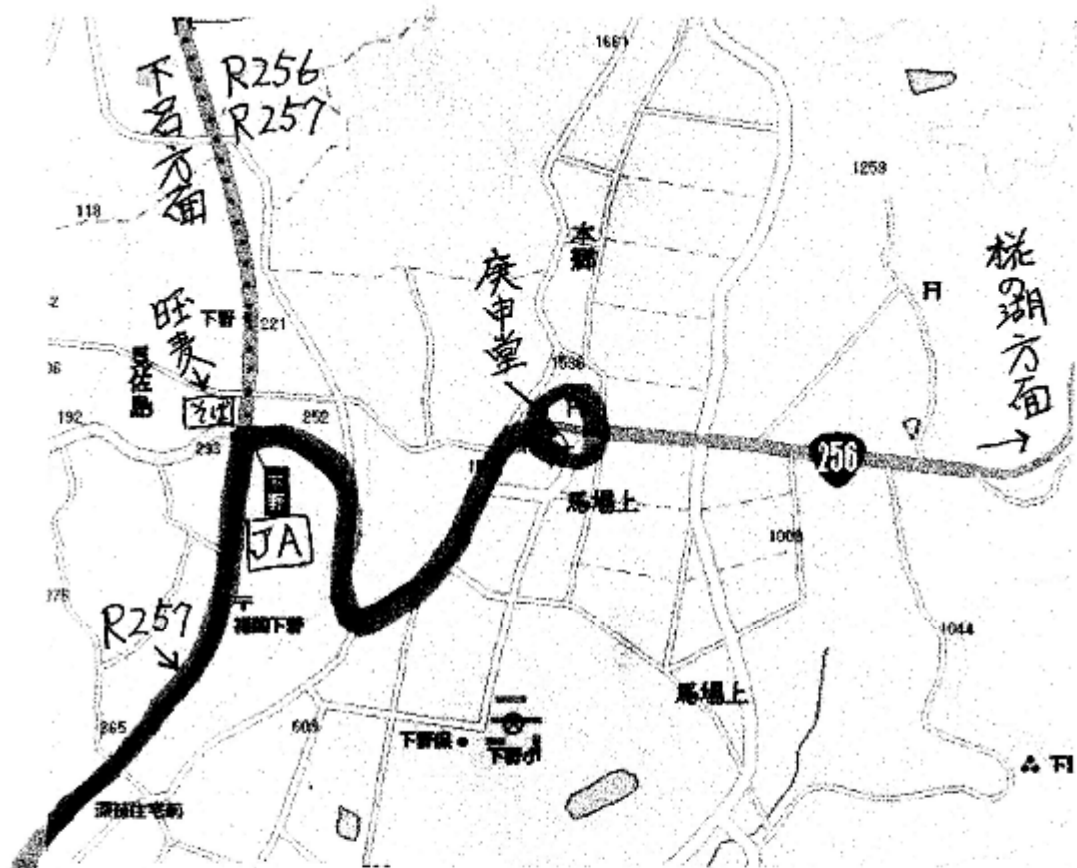
幾つかの理由が考えられますが、子供の頃から物を作って遊ぶ事がなくなり、オモチャでさえ出来上がったもので遊んでいると云う事も原因の一つでしょう。遊びを面白くするには次々と色々な事を考えなくてはなりません。そんな中から創意工夫が自然と生まれてくるのではないのでしょうか。それが薄れてきては大変なことです。

そんな老婆心から「物作り体験教室」を提案して了承を頂き、農小課外授業として取り組む事といたしました。楽しみながら物作りを体験しましょう。

物作り体験教室の日程

- * 12月17日(日) 10時～15時
わら細工。しめ縄、ぞうり、なわ、他
 - * 1月7日(日) 10時～15時
竹細工。凧づくり、竹とんぼ、他
 - * 2月11日(日) 10時～15時
草木染めの絞り(染色は8月に行います)。牛乳パッククラフト、他
それぞれ時間があれば昔の遊びにも挑戦したいと思います。
- * 場所 中津川市下野(しもの)。 庚申堂前 「青年の家」にて
- * 車ではR19よりR257号にて下呂方面に向い信号「下野」で右折1分
 - * 電車は中津川駅下車、北恵那鉄道「付知方面行き」「下野」下車徒歩10分
いずれも中津川より下野まで20分ほどです。地図を参照下さい。
- * 連絡先 TEL & FAX 0573-72-4835

農小スタッフ 小林まで



約10分 ← 有料200円 中津川大橋(木曾川)

